

**NO. 44** 2000. 3 (㈱九州地域計画研究所

NETWORK
~拝啓 小渕総理大臣殿・中山建設大臣殿
まちの中の歩道を歩行者優先道路にしてください 2
「就業」「雇用」「仕事」の数字をめぐって
~パート・アルバイト労働の増加はこの数年に
始まったことではない。 5
- 展刊集格をハースに部用の八、地域の八つフなかる
~福岡県浮羽町の農家民泊「國武庵」 9
2010~2015年の風景 V
2015年の農村地域は光り輝いている しかし当面の集落戸数減にどう対応するか
잡힌도요 그는 그는 부분들이 가장 시원을 하는 것 같습니다. 기반성이 되었다.
見・聞・食
田川市の新たなコミュニティづくりの挑戦
~セクション割りでなく、校区割りで自治活動を実践 14
公園づくりワークショップ① 宮田町笠松地区から 17
近点况 Translation and the Control of
じねん荘だより ~忘年会から就農希望者の集いまで 18
所員近況 伊藤家の正月~20年目のドレミファ写真/
通りがかりでアメリカの大学に立ち寄った/、『『八八』
カメラは腕とタイミングが大事だ/
SAS ミレニアム旅行~嬉野、有田の旅 19
a <b>本※BOOKS</b>
「あるある佐賀の底力」 23
「身土不二の探求」24

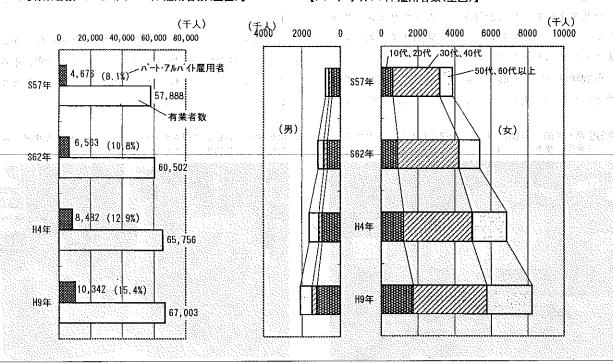
# パート・アルバイト雇用者は全有業者の15%を占める。

1982年(昭和57)から1997年(平成9)の15年間で、5年おきにパート・アルバイト雇用者数の推移をみると(『就業構造基本調査報告』より)、全国で467万人→656万人→848万人→1034万人と急激に増加し、有業者総数の15%を占めるまでになっている。パブル経済(1987~91年)の前後で一貫して増加しており、ここ数年のみの傾向ではない。男女ごと・年齢構成ごとの推移をみると、20代~50代の女性の増加が著しく、60代以上の男性の増加が大きい。(6頁の表参照)

## 【有業者数・パート・アルバイト雇用者数(全国)】

# 【パート・アルバイト雇用者数(全国)】 \*\*\* ハート ハント ハンド

1.编字字 (a) 医肾虚原体的 (p) 特别 (b) (b) 适宜 \$\$\$



# ~拝啓 小渕総理大臣殿 拝啓 中山建設大臣殿

# まちの中の歩道を歩行者優先道路にしてください

1.1 化特别自由效益

- ・この工事は、直接的に人々が暮らしやすくなる公共事業です。
- ・人々が街に出て楽しみやすくなると街ににぎわいが出てきます。
- ・にぎわいの中で人々の消費意欲も上がり景気によい効果をもたらします。
- ・キメの細かい市街地の工事は人手が必要ですから雇用効果も大きくなります。

糸乘 貞喜·井上 順之

●街の中の歩道をクルマによる侵略から守っていただけませんでしょうか。歩道を歩行者優先の道路にして欲しいというお願いです。

歩道が歩行者にとって歩きやすくなれば、高齢者も、 車いすの人も、子供も、スクーターですいすい回って いる若い人も、街遊びをもっとしたくなり、街がにぎ やかになり、「中心市街地の活性化」も進むでしょう。

建設省も、このような道路事業だったら、「無用のインフラ整備だ」などと文句をいわれることもないでしょう。「波及効果の少ない公共工事にばかり予算をつけてくる」などといわれることもないでしょう。歩道が歩きやすくなれば、街の商業・サービス活動も活発になり、消費が促進されるにちがいないのですから。雇用促進にもなるでしょう。道路工事の予算としては、同じ金額であっても、都心部や中心市街地での工事は郊外道路などより人手をかけた仕事となると思います。

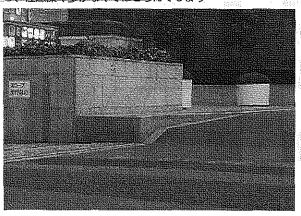
公共工事は必ずしも評判がよくありませんが、歩道を歩きやすくする工事だったら、皆が諸手をあげて賛成するに違いありません。

小渕総理大臣にお願いします。ぜひ都心や中心市街 地のにぎわいを取り戻すためにも、「歩道を歩きやす くする」公共工事にも予算を回してください。たった 9人の零細企業のミニコミ機関誌に、こんなことを書い てもしょせん蟷螂の斧かもしれませんが、もし目に とまりましたら、よろしく賢察のほどお願い申し上げ ます。

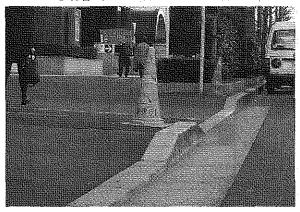
●霞ヶ関の国会通りの歩道も歩きやすくなっていない「歩道を歩きやすく」という願いを持ち始めたのは、ずっと以前からですが、誰かに言ってみようと思ったのは昨年の1月のことです。私の住んでいる福岡県で、両手にかなりの重量の書籍などを持って歩いていて、薄暗い中で急なレベル差に気がつかず、前のめりにころんで、口をケガした時からです。幸い歯は欠けなかったのですが、クチビルにケガをしてしまいました。オリンピックのマラソン優勝者の大地へのキッスなら格好がいいのに、私の場合は、原因は歩道にあるのに、なんだか自分が悪いみたいな気がしてはずかしい思いをしました。

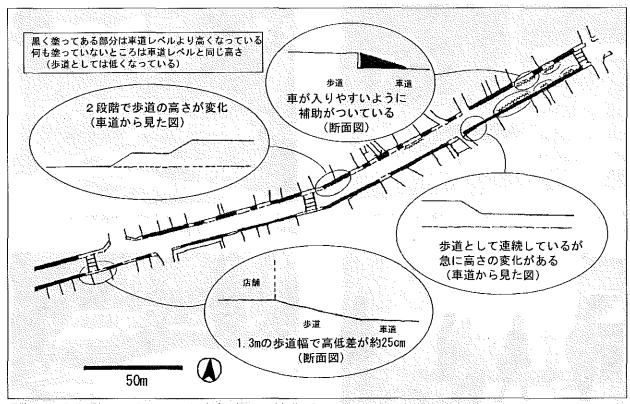
それでも、こんなことを言っても、自分が恥ずかしいだけではないかと思っていたのですが、今回、東京で歩いていて、やっぱり書くべきだという気になりました。

富国生命ビル前の歩道は2段階で歩道が切り下げられており、注意深く歩かなくてはころんでしまう



植裁部分ぐらいまで傾きをつけ、それ以外を平らな歩道にすればもっと歩行者が歩きやすくなる





通勤道路の歩道は約10mごとに1カ所の割合で掘り下げ車道が入っている

労働省に雇用統計のことで訪ねて行った帰りに、国会通りの南側を内幸町の方へ夕暮れ時に歩いていて、前のめりにショックを感じました。富国生命ビルの駐車場入口のところは、私の目測では、30センチぐらい歩道が切り下げられて低くなっています。つまり歩いていくと「60センチ進んで20~30センチ下がる」ようになっているのです。薄暗いときに歩いていると、私どもの歩幅だと、次の一歩で20~30センチ下がるのです。ここでも、私はおおいにびっくりしました。

この富国生命ビルの駐車場入口の隣にクルマが通るのでもないのにもうひとつ切り下げられたところがあります。歩道を歩く人はクルマのために、一旦30センチ下がって、途中でまた巾1メートル分ぐらい上がってまた気まぐれに下がってから上がるという動きをしなければならないのです。なぜこのようなことになっているのでしょうか。おそらく歩行者はあきらめており、管理者の方も歩道を無視しているからでしょう。この300メートルの間には、西向きにプレスセンタービルなどがありますが、すべて駐車場の前の歩道はクルマのためにいじめられています。長銀ビル、中日ビルのあたりは、少しは歩行者に遠慮した節もありますが、「歩行者優先歩道」とは言いかねます。

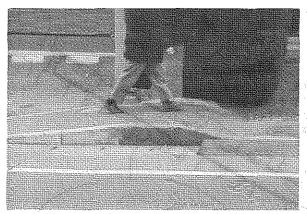
# ●通勤で歩いていた道は10メートルに1か所以上の 掘り下げ車道が入っていた

私がころんだ通勤道路の歩道は、約300メートルのうち30数か所の掘り下げ車道が入っていました。これが薄暗い中でクルマのヘッドライトなどでまぶしいと、全く高低差に気が付かない時があります。また、ひどいところでは、1.3メートルの歩道幅の中で、車道から軒までの間の高低差が25センチというものもありました。これは屋根として2寸勾配以上(20%ぐらい)となり、屋根の上を横切って歩くのと同じで、人の歩く場所という概念を超えています。これでは、車椅子で散歩するなどという気になれないから、車道を通ることになります。

私は2本足で歩いていたのですが、ケガ以降は原則と して車道を歩くことにしました。明らかにこちらの方 が安全性が高いと思ったからです。

車椅子の人も、車道を利用する方が安全でしょう。結局、「歩行者優先ではない歩道」は、歩行者が利用しばくく、車道へ回ってしまうことになり、クルマを運転している人にとっても、役に立つ歩道ではなくなってしまいます。

福岡都心の天神で、お店を巡回するような道も、歩



私が転んだ歩道 急なレベル差があり薄暗い中で前のめりに ころんだ



夜になれば歩行者であふれる天神の歩道も、クルマのために 掘り下げられているところが多い

化层层 人名英格兰克 化重相定应逻辑 實際公司

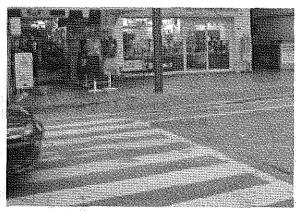
くための道路といえないような、歩道のような形をつくることが目的になっているところがあります。

私の事務所の周辺の歩道も「歩行者優先」になっていません。たしかに「歩道というもの」は作ってありますが、そこは車道側へ急勾配の1人分の幅しかありません。車椅子なんてことは論外です。

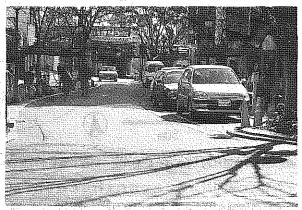
このような歩道が十分とれない道路では、「歩道と車道を分けよ」というより、「歩道でもあり車道でもある」 道路にした方がよいのではないでしょうか。よくボンエルフ(生活の道の意)型道路といって、クルマのスピードが出にくくした共存道路があります。市街地中心部でも(住宅街でなくても)このような考え方があっていいと思います。

●そもそも、ガソリンをまき散らしながら走るクルマのために、歩行者側を苛めて歩道に切り込みをつくるのではなく、車道側を盛り上げて、宅地や駐車場に入ればいいのです。

何人かとこの話をしてみたら、表記の見出しのよう



横断歩道をわたると1.3mの歩道幅で高低差約25cmもあり、 屋根の上を歩くような傾きである



カーブを増やし、クルマのスピードを緩めることによって、 歩行者とクルマがうまく共存する方法もある (ボンエルフ・熊本シャワー通り)

な意見が多数でした。私もそう思います。たしかにクルマはスピードが出にくくなりますが、考えてみると、狭い道路で歩道側をクルマがスピードを上げて進むのは困りものです。起伏があるのでスピードが出ないということになれば、交通安全のためにもよいことになります。

対策はいろいろあるでしょう。先ほど上げたボンエルフ型も、上記の方法も、広い歩道のとれる道路ならば、歩道上の植裁部分で勾配をとることなど、いろいろなことが考えられます。

先ず街中の歩道にどんな問題があるか、まちづくり NPOや、まちづくりグループ、私たちのようなまちづくりのプランナーに調査と検討をさせていただけませんか。雇用対策としてもなかなかの案だと思います。

and the second second second

□ □ (いとのり□さだよし・いのうえ じゅんじ)

CAN TELL VICE CLASSIFICATION AND

よかネット No.44 2000. 3

# 「就業」「雇用」「仕事」の数字をめぐって

~パート・アルバイト労働の増加はこの数年に始 まったことではない。

尾崎 正利

## (主婦パート 亭主以上に 主婦ハード?)

毎日通勤で使っている電車の吊革広告 (3cm×10cm くらいの細長い広告) に「あつまるくん」という求人 雑誌が読者の投稿川柳を載せていて、その中に冒頭の 見出しの下りがあった。他には「あつまるくん、父・母・私と回し読み」「ピアスやめ、髪を黒くし、手にゲット」 (ゲットというのは就職情報誌のタイトル) などその情景が雰囲気として想像できそうな秀作ばかり。

パート労働、アルバイト労働が増えていることや、失 業率が上昇していることは、ここ数年新聞やテレビ、雑 誌などで盛んに取り扱われている。

これまで私自身が失業率や求人倍率などについてあまり接してこなかったが、地域問題として就業・雇用・ 仕事の問題に注目したいと考え、まずはデータ集めから始めた。そこで今回からシリーズで就業・雇用・仕事のことについてまとめていきたい。

# (労働・雇用関係の統計書は数多くあった)

統計資料を集めてみて、まず日本の労働力市場を把握する目的で調べられる統計が結構多いということが分かった。調査方法ごとに主なものを大別すると、

①調査対象者に調査票を配布し回答してもらう調査

(「労働力調査」「就業構造基本調査」など)

- ②事業所に調査票を配布して雇用状況を調べる調査 (「雇用動向調査」など)
- ③労働省管轄の地域の雇用相談窓目であるハローワー つで集計された全国版の「職業安定業務統計」

の3つが挙げられる。代表的な統計の種類を下表にまとめてみた。統計をとるスタンスはいずれも違っていて「皆さんの仕事や労働などについて教えて」というものと「おたくの会社の雇用のことを教えて」というものと「仕事を求職者に紹介をした実績を数えてみた」という感じであろうか。

冒頭で紹介した川柳にちなんで、パートタイム労働やアルバイト労働について調べてみた。この2つについては「労働力調査特別調査」と「就業構造基本調査報告」に比較的詳しくまとめられている。

このうち「就業構造基本調査」は昭和31年に開始して以来、概ね5年に一度のペースで実施されており(最も新しいものは平成9年版)、内容は「ふだんしている仕事」の状態について調査した結果を集計したものになっている。パートタイム労働、アルバイト労働については、昭和57年(1982)に始めて登場し、以来4回にわたって調査されている。

まず「有業者数(ふだんしている仕事を持っている 人。自営・家族従業者・正規雇用従業・会社役員・パートタイム・アルバイト雇用者)」は、全国では昭和57年

労働・雇用関係の統計書の種類

調査名·所管	調査内容	特徴のある調査結果
労働力調査 (総務庁統計局)	・毎月末日現在「毎月の末日に終わる1週間」について調査。 翌月末に速報値。 ・「1週間に収入を伴う仕事を1時間以上していたかどうか」で 労働力を分類。	労働力人口 完全失業者 完全失業率
भा अंकृत केल्को हा उटी	・年間の動向をまとめた「労働力調査年報」が年1回刊行。	ing a street with
労働力調査特別調査 (総務庁統計局)	・「労働力調査」を補い、毎年2月末日現在の「国民の失業及 び不完全就業の実態、就業異動の状況」を把握。	最近では「新入社員の1/3 が入社3年目以内に離職」 などの動態
就業構造基本調査 (総務庁統計局)	・「ふだんの仕事」について調査。就業人口の有業・無業状態と就業状態を区分。 ・5年に1回調査を実施。社会情勢に応じ内容も若干変化。	全産業を対象にしたパートタイム労働、アルバイナ労働と正規雇用、家族労働の区分。
雇用動向調査 (労働省大臣官房 政策調査部)	・農業、公務を除く産業の事業所の雇用動向を調査。事業所 統計調査の調査統計区を基本とする標本調査。	一般労働者とパートタイム労 働者の区分。
職業安定業務統計 (労働省)	・全国各地のハローワークで把握された管内の求人・求職の状況を集計。	有効求人倍率。

に5.788万人いた。その後の推移は、

昭和62年 6050万人(対前期比 +262万人)

平成4年 6575万人(対前期比 +525万人)

平成9年 6700万人(対前期比 +125万人)

と増加し続けている。もっとも、昭和62年-平成4年はバブル経済のヤマの前後で伸びが大きかったが、平成4-9年は昨今の景気を反映してか伸びが少ない。また男女ごとの状況では、女性の有業者の増加が若干大きくなっている。

一方、有業者の中で、パートタイム労働、アルバイト労働をみると着実に伸びている。全国では昭和57年に467万人で、その後の状況は、

昭和62年 656万人(対前期比 +189万人)

『平成4年 848万人(対前期比 + 192万人) \*\*\*

平成9年 1034万人(対前期比 +186万人)

と5年ごとに180万人以上のペースで安定して増加しており、平成4-9年は有業者総数の増加分を超える増加となっている。

この数年、不況対策として「正社員だと諸々のコストがかかるので代わりにパートやアルバイトに切り替えた」事業所が増えたように新聞などで言われているが、実際には昭和57年当時から一貫して伸び続けており、一過性のものではないようだ。有業者数1千人当たりでみても15%を占めるまでになっており、男女ごとにみると女性の方で圧倒的に割合が高く人口1千人当たりで300人を占めるまでに増えている。ここまで増えると、単に代替のきく労働力ということではなく、経済活動を成り立たせる産業の担い手として重要な役割をもってきたといわれるゆえんだろう。

ちなみに「労働力調査特別調査」の方でもパートタイム労働、アルバイト労働の雇用者数がまとめられており、こちらでは平成10年に始めて1000万人を超え、平成11年現在で1024万人という状況で「就業構造基本調査」の結果とほぼ同じくらいの規模となっている。(60代以上の男性の増加が大きい)

パートタイム労働、アルバイト労働についての年齢 階層ごとの推移では、年代ごとに違いがみられ、10代、20代は男女とも増えており、30代、40代では女性の 増加が大きく、50代、60代では再び男女ともに増加している。平成9年時点だけでいえば、総数で1034万人のパートタイム、アルバイト雇用者のうち50代以上が300万人を占めている。特に男性は昭和57年に18万人だったのが、平成9年には61万人にまでなっている。この中には合社を定年後に、引き続き止まってパー

この中には会社を定年後に、引き続き止まってパートなどで働いている人も含まれるとみられるが、いずれにしても、全体のうちでも中高年の雇用形態として 拡がりつつことを示している。

# (パート・アルバイトを増やした業種は、ソフト化・高 付加価値化の進展と関係?)

パート・アルバイト労働を多く受け入れている事業 所側の状況を今度は「雇用動向調査」で調べてみた。

すると業種ごとにパート・アルバイト労働の比率が 違っており、高い方では「旅館・その他宿泊所」が26. 7%、「小売業・飲食店」は42.1%、「娯楽業」が24.3 %で、一般消費者と接する概して付加価値の高さで利 潤を得ていく業種、経営規模の拡大や効率化を進めて いる業種に集中している。

まるで産業のソフト化ということがそのままパート・

労働力人口、有業者総数、パート・アルバイト雇用者の推移(資料:就業構造基本調査)

単位:千人

	有業者組	総数	a ja		パート・	ペート・アルバイト雇用者総数										-
				i	総数				男性				女性			
	S57年	S62年	H4年	H9年	S57年	S62年	H4年	H9年	S57年	S62年	H4年	H9年	S57年	562年	H4年	H9年
全国	57,888	60,502	65,756	67,003	4,676	6,563	8,482	10,342	774	1,169	1,611	2,088	3,902	5,394	6,871	8,254
15~19歳	1,522	1,621	1,719	1,340	249	423	575	679	138	219	283	319	111	204	292	360
20~24歳	5,525	5,960	7,011	6,807	471	723	1,029	1,482	232	364	534	695	239	359	495	787
25~29歳	5,962	5,820	6.489	7,463	357	442	547	792	69	91	117	200	288	351	430	592
30~34歳	8,006	6,016	5,880	6,214	::620	518	572	712	57	52	51	. 88	563	: 466	521	624
35~39歳	::7,155	8,571	6,605	6,195	721	1,062	873	900	36	61	46	52	685	1,001	827	848
40~44歳	7,175	7,477	9 145	6,859	::779	1,034	1,397	1,158	26	35	49	51	753	999	1,348	1,107
45~49歳	6,764	7,095	7,618	9,119	582	887	1,091	1,513	29	35	35	58	553	852	1,056	1,455
50~54歳	5,882	6,394	6,988	7,231	365	620	887	1,065	30	48	42	50	335	572	845	1,015
55~59歳	6,820	5,070	5,945	6,341	394	389	627	830	86	68	68	72	308	321	559	758
60~64歳	*	3,116	3,978	4,232	*	271	494	652	*	103	190	215	*	168	304	437
65歳以上	3,076		4,377	5,202	138	193	388	557	71	92	195	288	67	101	193	269

資料:就業構造基本調査

<sup>※)</sup>昭和57年は55~64歳で集計されている。

アルバイト労働の吸収という形になっているかのような状況である。

そういえば、我々が九州内の地域で出会う特徴のある商売を行っている事業主などの話を聞くと、同じ産業の中であってもソフト化、サービス化の要素を取り入れるところは、そうした労働を多く取り入れているような気がする。

例えば、「雇用動向調査」では調査対象外となっている農業などは、事業主によって経営スタイルにかなり 差があるということを最近知るようになった。

一昔前には家族内の労働力をとにかく一致団結することで従事できた農家でも、頼りになる働き手を失って、今やお年寄りが無理なく農作業を続けて力一杯取り組まなくてもそこそこ元気に暮らしている姿に多く出会う。そうした暮らしは「ライフスタイル」としてはいかにも健康そうでうらやましい限りであるが、業態としての農業の維持、ひいては集落の維持も将来的には難しいかもしれない。

そんな中、長崎県の松浦市で会ったメロン生産部会長の話では、10数年前に露地ミカンから施設メロンに転作し10数戸で生産組合を作り、糖度が高く質の良いメロンを育てているが、「家族労働」(夫婦が中心)はもちろん、外部からのパート労働者を雇って、農繁期の多忙な時も、経営者が農作業に忙殺されないよう工

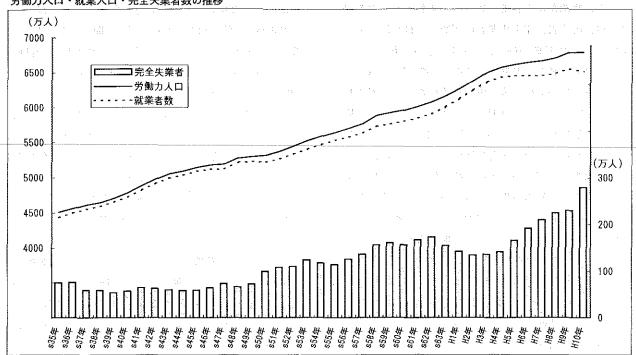
(24 - 7 1)	労働者数(A)			1. 1.
(単位:千人)		一般労働	ハートタイム	労働者(B)
			1 5 5 5	(B/A)
鉱業	61	60	1	1.6%
建設業	4,454	4,379	74	1.7%
製造業	10,652	9,437	1,214	11.4%
電気・カス・熟供給・水道業	310	302	9	2.9%
運輸·通信業	3,485	3,180	305	8.8%
卸売業	3,680	3,428	252	6.8%
小売業、飲食店	5,296	3,068	2,228	42.1%
金融·保険業	1,684	1,579	104	6.2%
不動産業	340	318	21	6.2%
サービス業	9,331	7,958	1,373	14.7%
駐車場、自動車整備、				14.11
機械·家具等修理業	341	306	35	10.3%
旅館・その他の宿泊所	577	423	154	26.7%
娯楽業	773	585	188	24.3%
医療業	2,067	1,812	256	12.4%
その他のサーヒス業	5,572	4,832	740	13.3%
ăt	39,292	33,709	5,581	14.2%

産業別事業所労働者におけるパートタイム労働者の割合 (資料:雇用動向調査報告)

夫をしているという。そして時間の余裕を作って何をしているのかというと、メロンの販売先を開拓するため、九州内のホテルや結婚式場などに営業活動をしているというのである。1年間の半分くらいはそうだという。パート労働を1戸当たりで年間延べ10~15人くらい雇っており、10数戸の生産組合ならば100人以上の雇用を生んでいることになる。

農作業も地元の大地という地域資源を活用したものであるから、不良資産や在庫を抱えるようなリスクも少ない。また集落の雇用を守り、地域の商店街の購買力の流出をくい止めている訳だから、地域の存続に相

労働力人口・就業人口・完全失業者数の推移



当な貢献をしていることになる。わずか10数年間でこれだけの地域雇用をつくりあげるのは今の時代、企業誘致や新産業創造などをもってしても並大抵のことではない。

人口集積が低い地方部では、大都市とその周辺部で しか成り立たない産業は成立しないから、引っ張って これる業種に限りがある。しかし、こうした地域資源 を利用してパート、アルバイト雇用の発生を進める雇 用開発のケースは参考になると思う。

# (長期的にはずっと増えてきた、労働力人口・就業者 数・完全失業者)

ところで今年1月に「日米の完全失業率が逆転」という見出しが新聞にも載っていたが、完全失業率という数値は「完全失業者数を労働力人口で割った数字」ということになっていて、その捉え方をめぐり様々な意見がみられるようになっている。例えばアメリカの完全失業率の計算方法と比べても、まず「完全失業者」にどの数値を含めるのかという捉え方にも違いがある。

平成11年版の「労働白書」ではアメリカ定義に合わせた完全失業率の試算がなされているが、平成11年2月現在で公表された日本定義4.7%に対し、アメリカ定義では4.2%と算定された。「日本定義の計算より低くなって良かった」などと言えないくらい、我々が日ごろ感じている雰囲気とは何か隔たりがあるような気がする。この現実に即した算定方法等については今後いろいろと議論がなされると思うが、実数としての労働力人口、就業者、完全失業者の「数」だけに限って言えば、この40年間の間で、オイルショック後とこの5~6年の2度を除けば長期的にはずっと増え続けている。

つまり、働いている人、働く意志のある人、働く場を失っている人の3者は同時に増え続けてきており、同時に失業率が上昇し続けているという状況である。「生活のため」というのが一番の理由かもしれないが、女性や高齢者で仕事そのものに意欲を持つ人が、働いていない状態で労働力市場に残っていることを意味してはいないだろうか。冒頭の川柳のように、娘だけでなく引退した父・母も個人として労働力市場に参加していく姿が増えれば、数字の上での失業率はもっと増えていくという構図である。

一方で、失業率が低くなって10年前のような「引く手あまた」の状態が良いかというと、必ずしもそうではないという気がする。

私が大学にいた頃(平成元年~5年)は空前の人手不足の頃で「当座の大金稼ぎができる」アルバイトは日雇いの土木工事の現場作業だった。覚えている範囲では最高で13,000円/日位もらっている友人がいた。当時、建設業の職人のなり手がなく、人手確保のため会社側は給金を吊り上げることで確保していたのだ。その友人は懇意になった親方が「人手不足で倒産しそうだ」と何度も言っていたという。かき集めるだけ集めても使えそうな人夫は来ない……と途方に暮れることもあったらしい。

また、これも人から聞いた話だが、同じ頃、家庭教師のアルバイトなども実にいいかげんであった。全く教える側の我流でもって、あちこちの子どもに迷惑をかけた人が多かったのではないか。2BB(第二次ベビーブーム)世代の受験に伴って家庭教師の需要が拡大した時期だったので、エセ家庭教師が大量に動員されたのだと思う。

能力などお構いなしに誰でも引っ張ってきてとりあえず人数を確保する世の中と、働く意欲・能力があっても働く場がない世の中、その両極端の狭間が今かもしれない。

## (雇用政策も多様な稼ぎ口の窓を拡げることが必要)

地域の雇用開発の仕事をお手伝いしていると、雇用政策の柱に「土地を造成して工場・流通業務施設を誘致して……」ということが易しいものではないという認識がかなり広まっていることに気づく。その代わりに今度は「交流人口」がトレンドだ。聞いてみると、観光でよそから来た人にお金を使わせる物産施設の計画などを考えている。誰の働く場なのか聞いてみると、「地元の若い人の雇用の場だ」という。

これは狙いとして悪いことでなく、むしろ地元の若い人をくい止める良いことにつながれば良いと思う。 地域の担い手を若い人に託したいという切ない気持ち もよく分かる。しかし「3人に一人は3年以内に離職」 する今の若い人のこと、与えられた職場で愛着をもっ て働いてくれるかどうかは、大いに気になるところで ある。

むしろ地域に愛着を持って働いている多様な年齢層の人が、いろいろな形態の商売で参加して、月に3~5万円でも稼げるような場があれば、地域内に関係者が沢山できて、地元でも応援されるようになって無理がないのではないかと思う。

これから先の雇用は、特に地方に行けば行くほど、正 社員やパートやアルバイトだけでなく、日銭稼ぎでも 良いから、多様な形態で働ける「労働に参加する人の ニーズに合った」システムを作る方が、効果が目に見 えて良くなると思うがどうだろうか。

一つ まっぱ (おざき まさとし)

農村集落をベースに都市の人、地域の人とつながる

~福岡県浮羽町の農家民泊「國武庵」

澤谷 真紀子

昨年、韓国食べ歩きの旅(アジア・グリーンツーリズムの会の韓国大会が目的だが)で御一緒した福岡県 浮羽町の國武夫妻宅へ遊びに出かけ、「かずらで編むラ ンプシェード」「どんぐりで作るトトロ」「ケナフを使 って漉いたハガキ」などの手作り体験を楽しんだ。

福岡県浮羽町は福岡市内から高速道路を利用すると1時間位で、棚田とおいしい水が自慢の町だ。「國武庵」はまちの中心部から南側に広がる耳納連山へ向けて車で10分ほどの場所で、山の中に入った10戸の人家からなる妹川(いもがわ)の乙原集落にある。

#### 【農家民泊はお客さんの要望に応えて自然にできた】

國武家は、ぶどう、かき等の果樹と水田(棚田)と 山林を経営する農家で、他に家族が食べる分の野菜も 作っている。以前から國武夫妻の人柄にひかれて、親戚や知人、子供の友人などがしばしば泊まりに来ていた。その時訪れた人達が「たけのこ掘りがしたい」「野いちご摘みがしたい」「昆虫採集がしたい」「田植えがしたい」……など色々なことを言うので、要望をかなえてあげようと試行錯誤し、一緒になって楽しんでいる内に口コミで広がっていった。

そのうち、友人を介しての来訪者も増えてくると、今 度は、泊まる人が「タダじゃ申し訳ないし、次に来に くくなる」という要望をだすようになった。

平成10年よりB&B形式 (Bed & Breakfast の略、

宿泊と朝食のみ)の民泊を始め、現在は宿泊・朝食で3500円(夕食は1500円プラス)、体験1500円(内容による)程度で宿泊と体験ができるようになっている。 私が友人と一緒に遊びに行く前に送られてきたFAXには、宿泊者の要望に応えた結果生まれた体験メニューがぎっしりあって、その下の方には「これ以外の体験『これをやってみたいな』と思うことを、相談してください。」と書かれていた。すごく立派なニーズ志向の田

#### 【農業が忙しければ民泊は休み】

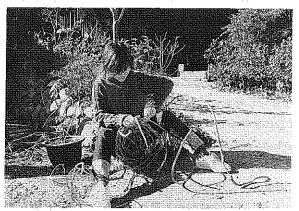
舎体験サービス業だと思う。

しかし、田舎体験が本業ではなく「うちは農業が本業だから」と國武さんは言う。そのため、ふどう、柿の摘蕾、摘花(※)、袋かけや出荷など、農繁期に民泊





國武庵、広い庭と高い天井・太い柱の家、澄み渡る夜空に星が きらきらしていた



かずらで籠づくりに挑戦

への予約の電話があったとしても、「今は忙しいのです みません」と断るようにしている。

農業というしっかりとした基盤があるから田舎体験サービス業が成り立つのであって、民宿のために農業を疎かにはしない、という集落全体で取り組む農業へのこだわりのようなものがあるように思う。だからこそ、浮羽の自然と農業が、國武一家のサービスと一緒になってイキイキとした魅力になって、ひいてはここを訪れる人が後を絶たないということになるのだろう。

#### 【集落のつながりと若い人の力で元気な地域へ】

よそから来る人に対してだけでなく、農村での暮ら しに根付いた地域サービスも行っているようだ。

年に1度、庭先で行われ毎年250~300人ぐらいの人を集めている「滝の谷コンサート」(町内:町外の割合はほぼ5:5)では、集落内の「とうちゃん、かあちゃん」や若い人が積極的に参加し、運営から進行、会場設営、接待用の団子作り等、いたるところで参加して楽しむ。

また、集落内の奥さん達に働きかけ、年に2~3回、

第一回(平成8年) 入場者300人 篠笛(尺八や横笛)

藤崎 重康氏

第二回(平成9年) 入場者250人 ジャズ

福岡城(7名のグループ)

第三回(平成10年) 入場者280名

ルネッサンスパロックの音楽と舞踏

グループ「葦」(チェンパロ、リコーダー、ピオテ・ダ・ガンパ
の7名のグループ)

第四回(平成11年) 入場者250人 アフリカン・パーカッション ビック、ノイズ、ワン(4名のグループ)

滝の谷コンサート

集落内の高齢者を集めた交流会(「宅老所のようなこと」 と仰っていた)を開くなど忙しい。

これらの地域内活動について年輩の人の中には「そんなことしなくても・・・」と言う人もいるらしい。しかし「地域で暮らす次の世代のことを考えると、ここで古い慣習を破って若い人を取り込んでいかないと集落が続かない」と言ってがんばっている。

韓国のシンポジウムで國武さんはグリーンツーリズム実践者として「人のつながりを大切にしている。そして一緒に楽しんでいる」と報告されていたが、これは来訪者に対してだけではなく、地域の人達に対してもいえるつながりのことなんだ、と後でうなずいた。 (※) 摘蕾(てきらい)、摘花:大きくて味のよい果実を生産するため、蕾や花の時に間引くこと。薬を用いる方法もあるが、國武家では手作業で行っている。

(さわたに まきこ)

----- 2010~2015年の風景V ----

2015年の農村地域は光り輝いているしかし当面の集落戸数減にどう対応するか

糸乘 貞喜

# ● "農業就業者は増えている"は本当か

西日本新聞の2000年2月7日号に、"帰農時代到来の兆し"というカラー2頁の大特集が掲載されている。日本地図に各都道府県ごとの新規就農者数が示され、「90年を底に増え始めた新規就農者」というグラフもあって、農村地域がにぎやかになりつつあるように思える。(表1)

本当にそうなのだろうか。

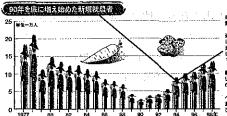
農村地域を回って話を聞いていると、「何とか我々の

世代まではやってきたが、次の世代は大幅に減る。なかなか嫁が来んし、独身の中年もけっこういる」と言われる。あるところでは、男子の30~34才で67人中23人が、35~39才で91人中29人が未婚であると聞いた。

ここで言われている危惧は、次の世代が農村地域に 残るかどうかということなので、その点を確かめてみ たい。

表2-①~⑤は、年齢別の農業就業者の推移を見たものである。佐賀県 K村の場合は、1975年には60才未満の農業就業者が445人いたが、95年には半減して238人となっている。この地域は農業が盛んなところであるので、一旦農業についた人は、やめるということは少ない。例えば、75年に15~39才だった人が180人いたが、20年後の95年には40~59才になって161人残っている。しかし問題は先の談話にもあった通りで、若い人の参入が少ないことにある。95年の39才未満の人が全員残っても、20年前とは大幅に減っているし、新しい農業就業者(表の?のところ)はどれだけ期待で

表1:増え始めた新規就農者(西日本新聞2000.2.7付)



日音所、48・男が、ての部から平1 編 新規規模者は単文に対象、ためを終 延しが51978年けたつのと一クで、 この年21万人が新規を担した。以終。 が開始、50年は7万00人まで記した。 しが1-67407年の年度は10万人会・日間上た。 日間を支えているのは最初が生から 電景が主になった電視に表の情報が、 10か5日4年からは、温電試算数のうち

表2:このままいけば2015年の就農者はどうなる (参考:農業センサス)

D <b>佐賀</b> !	県K村 ::	+4. j+.		(単位	: 人)
		1975年	1995年	2015年	
	16~39歳	180	77	?	
5	40~59歳	265	161	<b>≥</b> 4 70	
<u></u>	60歳以上	170	214 —	<del>)</del> 180 −	
_	計	615	452	250	_

-,1	60歳以上	170	214	180
	計	615	452	250
う	ち基幹的年齢層 (16~59歳)	445	238	70 +α
	\$1.4° p.	福祉 计图象	and the second	

②佐賀県	[丫町		(単位:人)				
		1975年	1995年 : : : : :	2015年			
4 (4.3) 1,24 (4	16~39歳	146	41	?			
	40~59歳	264	90 7	30			
an in an	60歳以上	189	148	80			
3	計	599	279	110			
	基幹的年龄/ 16~59歳)	萬 410 : .	131 🖽	·· 30 +α			

きるかわからない。

ついで佐賀県 Y 町、K 市旧 M 村をあげておくが、いずれも基幹的年齢層(60 才未満)の就業者は極端に減る可能性がある。

## ●なぜ減ったのか、増えることはなかったのか

減った原因は、はっきりしている。戦後一貫して、農村は工業などへの労働力供給基地であった。"あとつぎ"として残った人でも、出稼ぎや通勤を通じて、他産業の就業者になっていった。そして近年では"あとつぎ"としても残らず、都市へ移住していっている。そのことが表3の15~39才就業者の75年と95年の差となっている。

近年の動きについて見ると、基幹的農業就業者の中に占める65才以上の人の割合は、男で5割弱、女で4割弱となっている。将来の農業就業を示す15~29才の人たちは、男の場合で2%程度である。49才未満をすべて加えても20%位にしかなっていない。

この表をにらんでいるかぎり、平成10年までも含めて、30~49才層や50~59才層の就業者が前年より増えたというようなこと(新規就農者が年々増加してい

③佐賀県 K市 M 集落		(単	(単位:人)			
Marine Market	1975年	1995年	2015年	15 111		
16~39歳	296 <	112	?	14 th 4		
40~59歳	309	205	7 80			
60歳以上	172	228 —	210	1 (4)		
計	777	545	290			
うち基幹的年齢層 (18~59歳)	605	317	80	+α		

	· ·				
44	左賀県	1975年	1995年	(単位: 2015年	<b>人</b> ) (
	16~39歳	32,888	9,241	?	
	40~59歳	47,716	19,522	<b>△</b> 5,500	
	60歳以上	33,532	36,888	15,000	
	at at	114,136	65,651	20,500	_
. * :	うち基幹的年齢層 (16~59歳)	80,604	28,763	5,500 +α	÷

⑤九州	1975年	1995年	(単位:千人) 2015年
16~39歳	360	97	?
40~59歳	560	216	70
60歳以上	. 412	453	330
計	1,332	766	400
うち基幹的年齢層 (16~59歳)	920	313	70 +a

る)はない。一面では増えていても、減っていること の方がはるかに多いのであろう。

●離農はしやすく、新規就農には3つの障壁があった 農業就業者は、戦後50年間一貫して減少し続けた。 昔は不況時には農村へ帰って就農するという失業者の 受け入れの場となっていたが、今ではその役割は、大 都市などのパート労働市場が受け持っている。「農村に いれば食うだけはなんとかなる」という時代ではなく なっている。

このままいったら、集落形成のための戸数さえ不足 する集落がたくさん出てきている。それほど減った理 由には次の3~4点がある。

まず第一に、農業から他産業への転出には全く障壁がないが、農業につこうとすると法的にも規制されている。農業を始めるには農業委員会の許可を受けて、原則として50a以上の農地を、買うか借りるかしなければならない。離農するのに何の許可もいらないのに、就農しようとすると法的な規制があるというのは片手落ちのように思う。というより、どちらかというと、国や県・市町村は大規模農地経営を推進してきており、離農者からの経営耕地を大規模経営農家に集約することを推進してきている。つまり農村人口と戸数の計画的減少政策であった。

第二の問題は、収入の確保のむずかしさである。

農業は知的労働型産業であって、あらゆることについて、自分の意志を明確にして仕事を進めなければならない。サラリーマンのように朝飯も食わずに、電車で居眠りしながら出勤し、言われたことをやっていれば相当の高給を貰え、地位も上がっていくというような気楽な稼業ではない。一時「農協の言う通りにしたのに…、役場の言うとおりにしたのに…」と言ってい

表3:就農における営農資金と生活資金(新規就農ガイドブックより抜粋)

(単位:万円) 営農資金 生活資金 自己資金 用意した金額 (A - B) (B) (A) 水稲 527 918 **▲** 39I 559 野菜 (露地) 432 113 487 (施設) 582 1.480 **▲** 898 407 花卉 (露地) 500 1,500 **▲1,000** 150 (施設) 629 1.548 ▲ 919 368 1.397 1,081 316 852 1,224 解点 3.139 **▲**1.915 157 肉用牛 1,046 3,038 **▲**1.992 320 卷钨 **A** 116 277 2.135 1,164 971 827 **▲** 789 全体 1,616 401

3. 回答者総数393人。

たこともあったが、結局誰も責任をとってはくれなかった。

農林省や農協の言うとおりにしていても、個々の農家が直接に国際経済の最前線に立たされることは避けられない。「米を10ha作っていたら食える」と思っていても、3年後はどうなるかわからないのである。ということであれば、「サラリーマンの方がいい」と思うことを押しとどめることはできない。

#### ●農業は最も資本装備率が高い商売でもある

第三の問題は、就農するにはお金がたくさんいるということである。私の友人が農業をやりたいと言って、 農業大学校や農家での研修を重ねてきたが、「お金が足りないのであきらめようか」と言っている。

「新規就農ガイドブック〜始めよう農業」という本がある。この本によると「就農時に用意した総金額は1,200万円」と書かれている。内訳は営農資金に800万円と生活資金に400万円となっているが、実際には営農資金は平均で1600万円必要だったので、不足が800万円になったとされている。

仮に夫婦2人が就農するのに2000万円必要だとすると、1人1000万円となる。他の産業では就労1人にどれだけかかっているのだろうか。。

サラリーマンになるのに、「1200万円用意して来い」と言われることは、まずありえない。とは言っても、なかなか適切な資料はなかったが、一応「サービス業基 礎調査」からデータをつくってみた。

結論から言うと、サービス業平均で、従業員1人当たりの資本金額は、資本金額が200~500万円クラスの事業所で46万円ぐらい、5000万円~1億円クラスで270万円ぐらいと推定できる。

表4でみると、業種による差はないように思えるが、これは「資本金額」であり、投下資本ではない。業種によって借入金の比重も変わると思われるし、実質の資本装備額は、この2~3倍にはなっているに違いない。

表4:サービス業の従業者1人当たり資本金額 (参考:サービス業基本調査)

		資本金額 (万円)	200~ 500		500~ 1,000		3,000~ 5,000	5,000~ 10,000
ħ	ーヒス業			46	72	116	160	274
	旅行・その他の	)宿泊業		34	52	97	160	230
	情報サービス	調査業	75.1	52	87	113	115	158
	土木建築サー	ビス業		73	107	157	168	300

※)サービス業基本調査「産業小分類、資本金階級別事業所数、従業者数」 から作成。200万円以下と1億円以上の部分は省いた

注) 1. 回答金額は中心作目の平均額を表す。

<sup>2.</sup> 法人経営に履用されている者は含まない。

医线性性

しかし農業のようなことはないと考えられる。旅行その他の宿泊業の資本金200~1000万円クラスは、従業員が大体10~15人程度であるし、それ以下の資本金規模では7~10人位になっている。

農業が2人規模で1人当たり1000万円の設備投資がいるということは、大変な参入障壁である。昔、農業が労働集約型(元手がいらずに労力さえあればいいタイプ)であった頃は、失業したら田舎へ帰って…ということがあったが、今は全く逆になってしまっている。

●少子高齢化社会の農村で集落形成のための戸数を どうして維持するか

「少子高齢化社会は大問題だ」といった新聞記事などは多いが、一般論であって、地域づくりの立場からふれたものは少ない。一般的に言うかぎり、大都市では少子にふれた高齢化といっても、すぐに困ることはない。 少子高齢化が問題なのは農村のことである。

ここまで来ている農村を、「今さら頑張ってみても仕方がない。変な都会人が入って来るなら今のままがいい」という考えもあるかもしれない。しかし私は、兵庫県〇町の役場職員のN君が、20年近く以前に言った言葉が思い出される。「君なあ、なんでそんなに頑張るんや、給料が上がるわけでもないし、下手をすると嫌われて干されるぞ」と引っ掛けた言い方をした私に対して、「糸乗さん、わしはいいけどなあ、子供がここで育っていくことを考えると、元気のない町になったら困る」と言っていた。元気者の彼は、農村にヨメが来ないという問題についても、私と一緒にのんでいる時に、「ヨメをつかまえるなんてことは、都会からでも、

少子高齢化社会の農村で、2人の子供の一方だけでも 都会にヨメに行ってしまうと、地元に残るのは半分に なってしまう。現在進行中の実態は、これ以上の減少 率になっている。

ではどうすればいいのか。

●「ヨメつれ」「ムコつれ」「仕事つれヨメ・ムコ取り型」 農村定住者増加対策というのはないだろうかヨメつれと言うのはN君が言うように、男の魅力で農村につれてくるタイプ。ムコつれも女の魅力でムコをつかまえるタイプである。しかし、これだけでは、今まで多くの人達が頑張ったにもかかわらず、後継ぎ増にはなっていない。

これは、都市で仕事を持っている家族に、仕事を続けながら「2農8サラ型」の暮らしをするように移住してもらうというものである。

手順は次のようなことが考えられる。

- ①仲人をたてる。これは地元の人か、地元と今後とも つながりがもてる人。
- ②釣書をかわす。10割農業ではないので営農計画を出せと言っても無理だから、現在の仕事や、今後農村での暮らしの希望など、「目指すライフスタイル」を、地元に十分わかってもらうための企画書。
  - ③日頃から訪れて相互理解をすすめる。
  - ④時々同棲もする。現地に住んでみる。
  - ⑤仕事もち転居をして2農8サラになる。

以上は私の空想であるが、今まで農村側はあまりにも気前が良すぎたと思う。「人も出し、日常の買い物も、都市側で(時々農産物まで送ったりもする)」という形で、都市側支援ばかりやってきた。ここらでひとつ、都市側での稼ぎを持って農村に来てもらうことが出来ないか、ということから考えた対策である。そして私の周辺には、そんな暮らしをしたい人もいるのである。

農業専門家に、「農村のことが全くわかっていない」 と言われそうだが、一応空想を書いてみた。 もうひとつ提案がある。

● 21 世紀の私たちは「不安から逃れたい、確かな人と人とのつながりを求めたい」と思っている。農産物も「安心できるものを食べたい」と思っているエンゲル係数という言葉があって、年輩の人にとっては、戦後の食料難を示す指標として記憶に残るなじみのある言葉である。私の周辺でも「中学の時に習った」などと言っている。

※)エンゲル係数という言葉が死後となりかかっていることが気になったので調べてみた。富山県統計課編集の「経済指標のかんどころ」という優れたハンドブックがあり、昭和36年初版で平成11年には改訂20版が出ている。私は昭和40年代から愛用しているが、最近のもので調べてみると、「エンゲル係数」はなくなっていた。念のため問い合わせたところ、「1983年版まではのせているが、1986年版には出していない」ということであった。1986年というとエンゲル係数が26.8%になった年

## 表5:エンゲル係数の推移(資料:家計調査年報)

	S21年	S25年	\$30年	\$35年	840年	\$45年	\$50年	\$55年	\$60年	H2年	H7年	H8年	H9年	H10年
エンゲル係数	66.4	57.4	46.9	41.6	38.1	34.1	32	29	27	25.4	23.7	23.4	23.5	23.8

### 表6:年間収入5分位階級別エンゲル係数(資料:平成10年家計調査年報)

~4050千	川 円4050~5680千	III   円   5680~7460千円   74	V 460~10040千円 △10040÷	千円~
エンゲル係数	27.8	5.8 24.6	23.7	20.6

#### 表7: 生鮮野菜支出の比率

1 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	a.家計支出	b.食料			e.生鮮消費の支出 e=c/b×100
全国全世帯	3,938,235 円	1,027,239 円	81,462 円	23.8	7.9
勤労世帯	4,242,624 円	1,039,796円	<u>78,708</u> 円	22.7	7.6

である。

エンゲル係数;消費支出に占める食料費の割合であり、生活水準の高低を示す一つの指標となる(家計調査年報の用語の説明より)。

そのエンゲル係数が気になって調べてみたのが表5である。

たしか、「60%を越すと極貧だ」などと言われていたような気がする。これを眺めていて、①高度成長にはいる前までは40%を超していた。②昭和55年(1980年)には30%を切っている。③23.8%という数字の元は、消費支出が328,186円に対して食料費合計が

# ■ネットワークじまん■ ・ コット はっては

22才の女性杜氏がつくった"笑"という酒



「私の妻の姪が、日本では じめて(?) 杜氏となり、実 家でお酒をつくりました。 "笑(えみ)"といい、非常に ふくよかな味とデザインで す」と東急不動産の大川 陸治さんが送って下さいま した。マイルドでほんわか とした風合いの酒でした。

事務所の夕方は皆が批評家となってうるさいことです。杜氏の西本恵美(22)さんは「美人長」という酒を造っている"西本酒造場"の長女です。東京農大醸造学科卒とのこと。

鳥取県気高郡青谷町青谷(TEL:0857-85-0917)

(糸乘 貞喜)

78,156円(全国、全世帯)となっており、もうひとつの勤労世帯は、エンゲル係数が22.7%で消費支出は353,552円で、食料費合計は80,169円となっている。④念のために生鮮野菜の支出を抜き出すと表7のようになっている。⑤これから言えることは、生鮮野菜支出が50%増(4万円up)になっても、エンゲル係数には1%程度しか響かないのである。

私の提案は、農村はもっと「不安取除き産業」の立場に立って、エンゲル係数を少々高めてでも、安心な食べ物を供給するようにしたらどうだろうかということである。安心は「確かな人と人のつながり」の上にしか生まれない。農村はネットワーク産業の最先端に立てるように思う。

そうなれば、2015年の農業は最も "光り輝いている 産業"になっているだろう。 (いとのり さだよし)

田川市の新たなコミュニティーづくりの挑戦

~セクション割りでなく、校区割りで自治活動を実践

山田 龍雄

4.384

最近、自治体の総合計画づくりに係わっている中で、団体ヒアリングや住民会議などで地域の人と接する機会があり、ここで町内会活動やコミュニティに関することで住民側、行政側両方の悩みや思いを聞くことができる。ある町の町内会では①高齢化によって役員のなり手がいない、また何かイベントをするにしても力になる若手が少ない、②若い世帯が自治会活動にあまり参加しない、③若者がいる地区ではゴミ出しルールを守らないなど。一方、行政側では①財政事情が厳し

主管課名	補助金名称
生涯学習課	・校区活動支援事業 ・校区学校開放推進委員会補助金 ・田川市青少年育成市民会議補助金 ・校区同和教育推進協議会補助金
高齢障害課	· 校区社協活動事業費 補助金
中央公民館	·公民館活動推進員補助金 ·公民館校区協議会補助金 ·地区公民館運営補助金 ·校区活動補助金 ·地区公民館活動補助金
補助金総額	3,017 千円

## これからの補助金交付の仕組み(平成10年度以降)

主管課名	補助金名称	
中央公民館	校区活動補助金	
補助金額	3,017 千円	

※3年後は世帯割、人口割、活性化事業割 を勘案して見直し予定

## 校区活性化補助金等の交付の考え方の変化

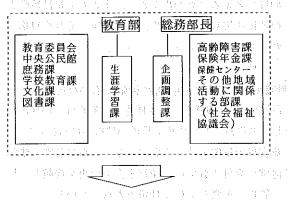
くなり、地域でできることはできるだけ地域でやって もらいだい、②計画段階から情報公開し、地域住民と 話し合う場を設けた方がより効率的で生産的ではない だろうか……などの声を聞くことができる。

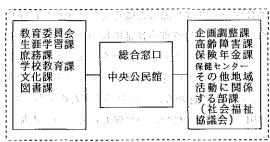
このように今、地域のコミュニティに係わる環境を 見渡してみると、高齢・少子化や共働き世帯の増加など の生活スタイルの変化により、従来のシステムでは地域 のコミュニティの維持が難しくなっているところもあ り、これは地域の大きなテーマとなりつつあるようだ。

町の担当の方とこのような話しをしていたときに、田川市で「地域のことは地域で考えてもらう」ような仕組みづくりを行っているとの情報を得たので、早速その実態を確かめに、この事業の計画づくりから係わってこられた内藤公民館館長にお話をうかがいに行った。 (トップダウン方式による仕組みづくり)

この仕組みを簡単に言うと、図に示すように従来中学校区単位で組織された「子供会育成会協議会」「老人クラブ連合会」「公民館連絡協議会」など12団体のそれぞれに交付していた地域の活動費約3,000千円を、各中学校区別に一括で交付し、使途を地区で考えてもらうようにしたものである。つまり「セクション割り」から「地区割り」にしたものである。

この仕組みづくりは、市長が平成8年3月議会に案を





行政の支援体制

提出し、1年間にわたる町内関係各課での研究と調整期間を経て、平成9年にモデルを2校区、平成10年4月から8中学校区でスタートして現在に至っている。

何故、このような新たな仕組みづくりが必要であっ たのかを尋ねると、次の3つのことがあげられた。

- ①田川市をはじめ筑豊地域では産炭六法が平成13年度をもって失効するため、従来、交付されてきた産炭地域振興臨時交付金もなくなることが予想される。平成11年度の田川市の一般財源は年間約320億円で、このうち産炭六法関係の財源が約70~100億円もある。市としては全体の予算削減と健全な行財政の運営が今まで以上に必要となった。このため地域活動費に至っても効率的な運営が求められる(産炭地関係の時限立法の失効後も5年間の経過措置が予定されるが、いずれにしても永続する話ではない)。
- ②田川市の場合、昭和60年当時には約6,000戸の炭鉱住宅(全世帯の3割弱)があり、これまでに4,000戸の改良住宅が建設されたが、長屋住まいで形成された濃密なコミュニティは時代とともに薄れてきた。地区によっては高齢化のため自治会運営に支障が出始めていることなどのため、新たなコミュニティづくりを行う必要が出てきた。
- ③田川市は、昭和62年に福岡県で初めて生涯学習宣言 都市を掲げてきたが、10年目の総括として新たな方

向性を考える必要が出てきた。主として福祉行政と の連携を視野にいれた生涯学習都市づくりを目指す 意味でも、地域で支え合うコミュニティの充実を図 る必要があった。

# 〈教育部と総務部との両部の権限をもつ公民館〉

「校区活性化協議会」の支援体制は教育部と総務部を総括する役割として中央公民館が位置づけられており、予算交付の権限も持たされている。これは各課で中学校区別に交付されていた予算を全て中央公民館が一括して管理・運営していく仕組みとなっている。

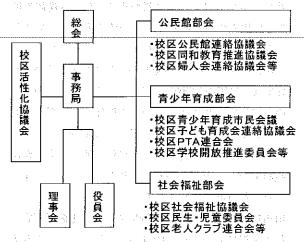
この仕組みを各課に諮った時点では「中央公民館自体が教育委員会と総務部の福祉関係の予算を掌握することがあって良いのか」と労働組合の方でも抵抗があった。公民館長さんは「田川市ではトップダウンで進めたが、その必要性が高かったため出来たのであって、よその町で同じようにやるのは難しいだろう」と振り返った。

しかし、このような仕組みづくりは全国でも初めての試みであったらしく、各地からの視察希望が増えているとのことで、私が訪問した週には広島県や岡山県の自治体からの予約も入っていたようだ。

## 〈仕組みづくりから、さらなる活動が期待される〉

校区活性化協議会の具体的な運営方法は、下図に示す3部会毎に会長、副会長などの役員を配し、部会毎で年間の事業計画と予算案を決め、各校区20~30人で構成されている理事会で決定するという流れになっている。この仕組みの中でコーディネーター役となる事務局が設けられており、現在は役場や教職員のOBの方がなっているようだが、今後、協議会の趣旨に沿ってリー

#### 校区活性化協議会の組織体制



ドしていく役回りになるところでもあり、最も重要なポストである。また、この事務局を各小・中学校の余裕教室にあてており、学校側の参加意欲を促すなどの効果も出てきでいるらしい。

この仕組みが出来て、平成11年度より校区単位に補助金(300~400万円)を一括交付を実施した訳であるが、各団体への交付は従来通りとなっているようで、校区の独自性を活かした取り組みにはまだ時間がかかりそうである。建物にたとえるならばとりあえずは"施設"はできたところであり、これからは施設を活かした校区毎の独自の活動が期待される。

校区活性化協議会設立後の効果として、下記のように8つの事項があげられているが、館長さんの話では、従来は地区のひとりの人が何役も兼ねていたようなことが地区活動を硬直化させた面が無視できないこと、そして行政側も特定の人に任せておけば楽だという甘えもあったということで、その反省から、役員1人1役体制を原則として進めていくことを強調されていたことが印象深い。とにかく田川市の新たなコミュニティづくりの挑戦は、地方分権をにらみ、今始まったばかりであり、どのように地道に根付いていくか注目していきたい。

#### 校区活性化協議会の8つの効果

- ・各団体の交流が活発になり、校区全体での事業を行 うようになった。また各団体同士の事業支援が活発 になった。
- ・各団体が一同に会するようになり、いろいろな意見 交換が可能になった。
- ・各団体の事業内容がわかるようになった。
- ・それぞれの団体間で予算執行など参考になる部分が たくさん出てきた
- ・役員の1人1役体制を原則としているため、若い指導者の掘り起こしが進みつつある。
- ・学校に事務局を設置したため、教員や児童・生徒と の交流の機会が増え、挨拶などを交わすことにより 身近になった。
- ・夕食宅配などを通じて、地域内の高齢者の生活内容 がキメ細かく把握できるようになった。
- ・「自分たちの地域は自分たちの手で」の考え方が徐 々にではあるが、浸透しつつある。

# 公園づくりワークショップ①

宮田町笠松地区から

伊藤 聡

昨年夏、イギリスのグラウンドワーク(以下GW)を体験に行った宮田町笠松地区の子どもたちが、その成果を形にするために動き始めた。地元の笠松小学校の高学年の児童たちとイギリスに行った中学生で公園づくりを始めるのである。この校区には大手企業の工場ができており、その余剰地を借りて公園にしようという計画である。数回に分けて組んだワークショップのプログラムの中で実践していくことになるが、現段階での途中経過を報告したいと思う。

## ●4つのテーマで地域の勉強

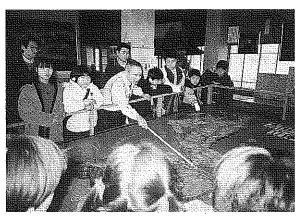
他にはない、ここでしかできない自分たちの公園にするには、地域の歴史や自然を学び、それを形にしていくことが必要になる。人数が多いからでもあるが、グループ分けをしてそれぞれのテーマで取り組んだ。テーマは「鳥」「魚」「昔話」そして「炭鉱」の4つ。「鳥」と「魚」は、地域にどんな生き物がいるか、どこにいるのか、どういう生き方をしているか、「昔話」はどんな話が残っているか、舞台はどこか、それにまつわるものが残っているか、「炭鉱」は石炭産業が盛んだった頃の様子、いかに全国に誇るべきものであったか、などを勉強した。

# ●物知りおじさんに話を聞く

第1回目はテーマ毎の地元の「物知りおじさん」に来ていただいていろいろ教えてもらい、子どもたちからも次々質問が飛んだ。私は炭鉱チーム(チーム名:ボタまん)に入ったが、私自身宮田町の隣の同じ炭鉱町の出身でもあるので、物知りおじさん(宮田町石炭記念館の館長)から見せてもらう昔の写真などは興味深かった。

私も子どもの頃は炭鉱についてほとんど知らなかったわけだから、途中で小学生から「石炭って何ですか」 と質問が出るのも当然だろう。

子どもたちは興味の示し方は様々だが、写真を見ながら「あそこの広い場所は昔こんなに住宅がありました。 今でも少し残っていて、ボロボロだけど人が住んでいます」とか「炭鉱の穴の中はこんな風に人が働いていました。ここの地下にも穴があいています」などと身近なところでの話を聞くと、やはり惹かれるようだった。



石炭記念館で「もの知りおじさん」から当時の様子を教えて もらう

# ●公園づくりのヒント探し

第2回目は、1回目に教わったことなどを元に外へ出て地域を見て回った。炭鉱チームは石炭記念館、露天掘りの跡、炭鉱住宅、積み出し港跡等に行った。石炭記念館では実際に石炭を燃やして見せて頂いたのだが、私も見るのはこの歳(31)ではじめてであり、体験としては子供たちと同じレベルであった。

資料などを見た中で、公園づくりのヒントになりそうなものはいくつかあった。ボタ山、巻き上げ機、トロッコ、坑道あるいは坑道を支える木枠、積み出し港や川ひらた、ガス探知機でもあったカナリヤなど。

他のチームでは、バードウォッチングの小屋、魚釣りのできる池等を考えているようだ。

公園づくりについて昨年のイギリスGWでの経験を踏まえるなら、例えば子供たちだけでなく保護者や地域の人たち、あるいは訪問してくれた人たちなども含めて1人1枚ずつ記念プラック(タイルやモザイクなどの飾り板)をつくり、ひとつのモニュメントにするということもできるだろう。

#### ●学校が主体で GW が協力

公園づくりには笠松小学校の協力を全面的に得ており、学校としても週末の課外的取り組みだけでなく、総合学習の一環として授業時間にも取り入れていくようになった。一部の先生方にはGW福岡の会員になってもらっているため、その辺は協力しやすい。ただし、我々GW福岡のメンバーは現在市民ボランティアの状態であるので、平日の授業中の活動となると参加できず、逆に学校側が主体となって我々が協力する形になってきている。だが、この方がきっと地域に根付いた活動になるだろう。

公園は、基本的には手作りとする予定であるが、どういうアイデアを取り入れるか、何を題材にするか、どんなデザインに仕上げるか等はこれからの検討事項なので、さらに次回以降に報告したい。(いとうさとし)

## じねん荘だより

~忘年会から就農希望者の集いまで

尾崎 正利

## ●糸島の豊かさを味わった忘年会(12/26)

毎年当社の忘年会の場所決めは新入社員の役目。しかし昨年は早々に「じねん荘」でということになった。 餅つき、朝獲れのブリ、芋煮、ソバなど糸島半島で

動つき、朝獲れのブリ、手煮、ソバなど糸島半島で 獲れたもので腕によりをかけて逸品を用意し、日頃お 世話になっている皆様と一緒に……ということで話が 進められた。

「じねん荘」はもともと繁天という屋号で天ぷらなどの料理を振る舞っていたところ。立派なガスコンロや流しなどを使って、果たしてどのくらいのもてなしができるのか、というチャレンジの気分も高まる。

家主の糸乘氏は快く引き受けてくださり、京都から奥 様も応援に駆けつけて準備の先頭に立ってくださった。

当初みんなで忘年会(12/26)の前の晩から泊まって酒盛りでもしながら準備しようという話になっていたが、泊まったのはなぜか私一人。当日は早朝から準備に取りかかり、この日のスケジュールは概ね次のように進めた。

朝5時 ブリを買い出し。つまみ食いしながらブリを 裁く。

朝9時 山本さん登場(山本さんは糸乘農園のお手伝いに時々来で下さる方)。ソバ打ち準備。

朝10時 事務所の連中ようやく到着。つまみ食いさせよという声を無視、逆にその場で買い出しを命令。

朝11時 芋煮準備完了。火が入る。当所所員の小田くんの親戚から送られたカニが届く。

正 午 服部さん登場(服部さんは唐津方面から自転車で来ておられた)。ソバゆで開始。

昼1時 乾杯。バーベキュー準備完了。ブリの造り・ブリ大根完了。

毎年5月のよかネットパーティーでも、お客様からい ろんな持ち込みをいただいて好評なのだが、今回の忘 年会もいろんな品を戴いた(中には送って下さる方も おられる)。以下に紹介する。

- ・乾杯用のシャンペン
- ・呼子のイカそうめんセット
- ・手作りの蒲鉾セット
- ・鹿の刺身
- - ・とれたての椎茸
  - ・お酒・焼酎 など

参加者は所員を入れて30名以上。時には室内で、時には屋外でと場所を移して行った。用意したものはどれも大変美味しかった。宴は日没と同時に終了。日没前、可也山の後ろに日が落ちる光景はなかなか絶景だった。最後に記念撮影して解散ということに。「毎月やらんと?」と言って帰る人もあった。

# ●新規就農+田舎暮らし希望者の集い (1/22)

大阪がら来たお客さんが「じねん荘」を訪れた。詳 しくは知らないが田舎暮らしをしたいという。

そこで、前号で紹介した「なぎさの伝習所」をきっかけに長崎県鹿町町に住み着いて新規就農した邑本さん、いつも糸乘農園を手伝って下さる山本さん(この前まで新規就農を目指しておられた。前原市在住)に声をかけて、「何となく田舎や農業に憧れて、暮らしを変えようとしている人同志」といった雰囲気の集まりになった。

邑本さんは鹿町町で有機農業一本やっていくため現在地元の農家のところで研修している。「妻子を連れてではなく、男性の独り暮らしで農業に新規参入するのは結構大変」という。また、「田舎に行けばいくほど、受け入れてもらいやすいと思ったのに予想が外れました」とも言っていた。山本さんも新規就農を目指して大阪からこちらに移り住んできた。しかし最近は100%

さあ準備開始!



農業でなくても働きながら農作業で……という気持ちになっているという。100%農業目指していた頃は八ヶ岳の就農準備校にまで行き、その後も信州のレタス農家で研修したという。

その夜、大阪から来たお客さんと一緒に食事しながら情報交換会に。私は忘年会に続いてまたもここで魚 料理をふるまうことに。

皆さんの話を聞いてみると、あちこちで「農業をやりたい」とか「農作業仲間を捜している」という人が結構いるらしい。九州以外では「若い女性だけで農業に取り組むメンバーがいるけど、新しく問い合わせがあったとき、すぐに取り組めるという人でなきゃダメ」というヤル気旺盛な人々もいるらしい。

翌日は山本さんの案内で、都市近郊の農業としているいろな取り組みをしている糸島半島内の農業就業者を見て回った。不耕起型農法に取り組む若い女性や(この方は松原さんといってNHKのテレビでも取材された)、卵のつかみ取りをさせる農園などもあって、話題になる農業や楽しめる農業など、いろいろ新規参入していく切り口があるのだなあと実感した。

(おざき まさとし)

#### 所 員 近 況

### **Ѭ** 伊藤家の正月〜20 年目のドレミファ写真

わが伊藤家一族は正月の集まりがよい。今年は久し ぶりに父方の6人の兄弟姉妹と男兄弟の妻子、それに子 (私)の妻子まで総勢18人が全員そろった。

\_\_\_\_\_\_

父の兄弟は、上は姉が2人、長兄、父は次男、下に弟が2人の6人兄弟である。戦前から戦後にかけての生まれで、兄弟6人は決して珍しくないと思う。長兄は健康

同姓いとこの「ドレミファ写真」のはじめ(20年前)



上の関係などから独身で子供はおらず、私の父が実質の家督を継ぎ、長男の役割を担っている。伊藤姓の子がいるのは私の父以下の3家族で、子世代(私の世代、つまり伊藤姓の私のいとこ)は7人いる。一番上は私で31歳、一番下は20歳で今年成人式を迎えた。

祖父母が亡くなって10年近く経ち、親兄弟も毎年揃うということは少なくなった。子世代も最近は毎年誰かが受験に当たり、私を筆頭になぜか浪人経験者が多かったため、なかなか全員は集まれなかった。今年は全て受験も終わっており、福岡県内の社会人と首都圏の学生という比較的安定した身分で、7人集まることができた。

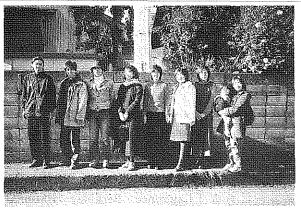
一番下のいとこが産まれた頃から、背の順に一列に並んで写真を撮る、というのがいつの間にか恒例行事になっていた。伯父が名付けたと思うが「ドレミファソラシド」状態である。11歳差の中に同い年はおらず7人がほば分散しているため、毎回きれいな傾斜を描いた。子供の頃は年の差イコール身長の差であったが、下の方が高校生になる辺りから下克上が始まり、私の先頭の座も数年前に奪われてしまった。

伊藤家の「ドレミファ写真」の面白さと、1枚目から数えて今年で20年目になることに気付き、毎回の写真を集め、カラーコピーでアルバムを作ってみんなに配ったのは私の母であった。そのことを話題にしながら、久しぶりの「ドレミファ写真」を撮った。

同姓のいとこでこんな写真が撮れるのは、少しは珍 しい事だと思うが、その時、これが実はそろそろ最後 になりそうだということにみんな気付いたのである。

私の兄弟は妹が2人である。2人が嫁いで別姓になれば私の子どもには伊藤姓のいとこはいないことになる。

今年の「ドレミファ写真」。みんな成長して、あまりドレミファになっていない。21年目も撮れることを願って。



伯父の家族は、三男のところが女2人の姉妹で伊藤姓のいとこができる可能性はかなり低い。四男の家族は男二人の兄弟なので伊藤姓のいとこができる可能性はあるが、今の時代、どれだけ子供を作るかは分からないし、毎年集まるような正月がこれからも続くのか分からない。少なくとも、私の次の世代では、本家において同姓のいとこ写真は撮れそうにない。

今の我々の代がいつまでこういう写真が撮れるかを考えてみると、これもまた危うい。いとこのうち女性は4人いるが、今年30歳を筆頭に、いつ結婚しても不思議はない年齢に来ている。結婚すれば多分伊藤姓ではなくなるし、正月も夫方中心になり集まりにくくなる。結婚しても私の妹の場合は実家に来ればよいのでまだ良いが、伯父の娘はいとこの家に遊びに来ることになり、かなり難しいだろう。どこの人と一緒になるかにも左右される。また、今年2人が新たに社会人になる。東京で大手デパートに就職する子は、初売りなどに借り出されればみんなと一緒に帰省できない。ここ2~3年のうちに全員社会人になるとすれば、誰かが帰って来れなくなる要素はさらに増える。

いろいろ考えると、同姓いとこのドレミファ写真は 今年あたりが最後だったかも知れないのである。しか も次の代はなさそうなので少なくともあと数十年はな い。あるとすれば、どこかの家が子だくさん家族にな った場合、その次の代で可能性が出てくる。私のうち が子だくさんに?……どうなることやら。

これだけの親戚が継続して集まれるということは、みんなそれなりに健康で、しかも仲がよいということであり、誇らしいことであると思う。

ちなみに、伊藤一族の集まる家(私の生まれ育った家)は直方市にある。私の父が生まれた年に建てられ、今年共に還暦を迎えた。私が高校生の頃までは、祖父母らも含め8人住んでいたが、現在は私の両親と妹2人の4人+猫1匹で住んでいる。しかし、お寺でもなく農家でもなく大金持ちなわけでもないのに、親戚全員が寝泊まりできるだけの部屋と布団があるところが、実家ながらすごい。 (伊藤 聡)

#### **翻**通りがかりでアメリカの大学に立ち寄った

1月の半ば、仕事の関係で、アメリカの研究施設の視察に行ってきた。

最初に訪問したのは、サンフランシスコに近いバークレーにある「Lawrence Berkeley National



バークレー校手前の街なみ

Laboratory」のALS (Advanced Light Source) という施設。山の斜面地に建つこのラボは、サンフランシスコ湾が見渡せる場所にあり、隣の建物へ行く程度ならば歩いてでも可能なようだが、基本的には車で移動するしかない。

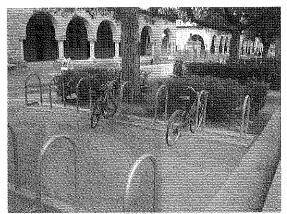
このラボは、米国エネルギー省(DOE)による資金 で運営される施設の一つで、1940年にカリフォルニア 大学バークレー校キャンパスの上の山側に設置されている。最近は、研究費も厳しくなっているぞうだ。

手前にあるバークレー校の入り口手前には、都市サービス施設が通りを挟んで立地し、大学門前町の雰囲気もみられる。サンフランシスコからは、バークレーまで地下鉄(BART)で移動が可能で、駅を出れば、歩いて大学まで行けるが、ラボまでは無料のシャトルバスがダウンタウンとの間を運行しており、サンフランシスコからのアクセスは便利である。

翌日は、訪問予定では無かったのだが、せっかくここまできたので、スタンフォード大学を見にいくことにした。市内の駅から鉄道(Caltrain)で、スタンフォード大学まで約1時間半で到着、理由は分からないが、途中何度か駅以外のところで止まったので少し時間がかかったようだった。

駅から大学までは、ウィークデイであれば、大学と駅間をシャトルバスがあるそうなのだが、残念ながら土曜日だったため、大学の中心まで15分くらい歩いて行った。広大な敷地に建つスタンフォード大学の中の移動は、どうしてるのかな、車か自転車を利用するのかなと思っていたら、大学構内にもあちこちに自転車留めの設備があり、日常は学生は自転車を利用しているのだなと納得した。

大学の中に入ると、大学生とは違う人たちが、カメ



あちこちに見られる自転車留め

ラを提げて施設を見て回ったり、買い物袋を持った人たち (我々も同じでしたが) がウロウロしているのが見られ、この大学は地域の一つの観光資源にもなっているのかと思った。学内の売店に入ると、生活必需品だけでなく、大学のキャラクターグッズや大学を紹介する出版物がたくさん並んでいた。多くのお客さんたちは、どうみでも記念として買っていると思われるものを持ってレジに並び、学生アルバイトと思われる店員に渡していた。

スタンフォード大学の学部生は、約6600人、そのうち留学生はわずか5%だが、大学院となると、約7600人のうち、留学生は30%、さらにその50%はアジア系の学生である。大学の資源を生かすために1951年に建設されたリサーチパークには、現在約23千人の従業員が150企業以上で働いている。また大学のサポート機能として開発された89エーカーの商業ゾーンでは、約2千人が働いていおり、大学を中心とした一つのまちを形成しているようだ。これらの開発による収入は、大学にとっても重要な収入に位置づけられている。

この後、ルイジアナ州のバトン・ルージュにある州 立大学の研究施設を訪れ、最後にノースキャロライナ 州ダーラムにあるのデューク大学を訪ねた。

デューク大学は、世界的に有名なリサーチ・トライアングル・パークと連携する大学の一つで、医療関連の研究開発が盛んであり、関連する企業も数多くこのパークに立地している。

今回の視察は、大学運営がテーマでは無かったため 詳しいことは分からないが、ビジネススクールやコミュニティカレッジのショートプログラムなどのPRが目 に付いたが、日本の大学で最近流行っているのも、このせいかなと思った。 (山辺眞一)

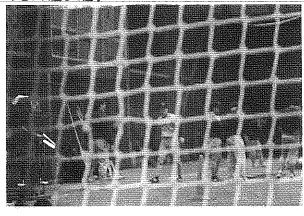
#### **翻** カメラは腕とタイミングが大事だ

2月最初の日曜日に巨人軍の宮崎キャンプを見に行きました。福岡からみると宮崎はとても遠い所だというイメージがあったのですが、高速道路ができたおかげで車で4時間弱(高速に乗ってから)で、行くことが出来ます。この日はあいにくの雨で屋内練習場での練習だったのですが、着いた頃にはすでにたくさんの人が見に来ていました。スポーツ新聞によると、この日は3000人の観客数で昨年の1/5だったそうです。車を見ると圧倒的に宮崎・鹿児島ナンバーが多く、客層は意外?にも、おじさんおばさんが多いので驚きました。球場に押し掛けている人の割合は、おじさん・おばさん:家族連れ:若者:その他(年齢不詳)が6:2:1:1で、これが宿舎の方まで行く人の割合になると1:1:7:1といったところ。ちなみに、今の数字では私は若者ということにしています。

お目当ての選手がいる人やサイン収集家の人は、宿舎の方まで行くようです。私も宿舎まで行き、入口近くにある選手達の飲み物置き場の横で約1時間ほどそこで張っていたのですが、超有名選手がたまたま飲み物置き場に来たとき、多数の報道人とファンの人の波に埋もれてしまい、その間に、私が目当てにしている選手は私の後ろを通って宿舎へ入ってしまう最悪の結末になったのでした。そして追い打ちをかけるかのように、翌日現像に出すと、フェンスとネットのため「ピンぼけ」して何を撮ったか分からない写真が二十数枚、そして選手が突然やって来てきたときにあわてて撮ったものが超ズームだったため奥にいた見知らぬおじさんに見事にピントが合った写真など、要するに不出来の写真ばかりが私の手元に出来上がってきました。

この日のために、120mmまでの望遠レンズ付きカメ





よかネット No.44 2000. 3

ラと、感度のいいフィルムを買ったのに。写真は、カメラとフィルムの質ではなく腕とタイミングだという ことでしょうか。私は「次の機会にリベンジを」と再 起を誓ったのでした。 (佐伯 明日香)

#### M SAS ミレニアム旅行〜嬉野、有田の旅

どこかの旅行会社のツアーと勘違いされてはいけないので、まず「SAS」とは何なのかを説明すると、「SAS」とはシステムズ・アナリスト・ソサェティという難しいネーミングではあるが「会則なし、入会・脱退も自由」というあまり規則のない"ええ加減な会"である。昭和46年当時に通産省に在籍されていた平松守彦氏らが中心となって設立されて以来、実に30年近く続いている会である(全国会員は名簿上は約750人)。適当なええ加減さが継続の秘訣のようで、あえて言えば、何か人との出会いを楽しみたい、あるいは何か面白いことをしたいと思う人の集まりである。

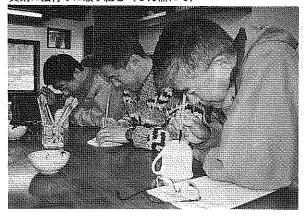
。このグループの九州支部のメンバー18名で2月初旬 に1泊2日の旅行を楽しむことになった。

# (肥前夢街道には、再び夢が来るのか)

1日目は嬉野温泉に入るということが目的である。久 しぶりにゆったりした時間を過ごすことができた。嬉 野に午後3時ごろに到着し、夜の宴会まで少し時間があったので、嬉野で江戸時代の街並みや雰囲気をコンセ プトとしたテーマパーク(温泉旅館の経営)を希望者 5名で見学にいった。私は6年前に行ったことがあり、 その後どうなっているのか確かめたいと思っていた。

6年前は嬉野温泉に来た団体客を中心に、入場者も多く会場には「ガマの油売り」や「たますだれ」などの大道芸人もいて多少は賑わいと活気があったのを覚えている。しかし今回は入場者も我々のグループを含めて20人もいないほど疎らで、かつての賑わいは今いず

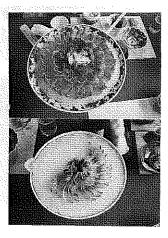
真剣に絵付けに取り組む(しん窯にて)



よかネット No.44 2000. 3

とにかく絶品だった川魚料 理の数々

上 : 鯉のあらい 下 : 寒ブナ



こという感じであった。パンフレットを見ると店じまいしたアトラクションや店舗が黒のマジックで10件程 度消されている。

一緒に行ったメンバーの感想は、新聞等で言われていたようにこのテーマパーク自体の魅力 (料金が高い、売り物が明確でない)の要因もあるかもしれないが、従来型の団体客をターゲットとしてきた嬉野温泉の観光全体にも何か原因があるかもしれない、などといった結構厳しいものであった。

## (充実した有田焼学習の旅)

2日目は、当社で有田町のまちづくりに係わったことがあったため、その折にお世話になった地元の方に事前にお願いし、有田で今特徴のあることを取り組んでいる方に会って、まち中を見て回るというスケジュールで動くことにした。

午前中は「しん窯」で染め付け体験をしたが、参加 メンバーの中には絵付け体験が初めてという人も結構 いて、ワイワイ言いながら思い思いの絵を描いた。「し ん窯」には江戸時代から残る古い登り窯の跡もあり、土 中に埋もれた磁器のかけらなどを見て楽しんだ。

昼食は西有田町の川魚料理の「龍泉荘」というところで寒ブナの刺身と鯉のあらいを堪能させていただいた。寒ブナは冬期から春先までの期間限定のものだが、全く臭みがなく、歯ごたえがある絶品の味で、同行していたメンバーの感想も上々だったようだ。

午後は、有田の街中を歩いて回るため、有田町でボランティアガイドをしておられる円田四郎さんにお願いして、有田で磁器が焼かれるようになった所以である磁石が発見された「泉山磁石場」をはじめ、主に街中の裏通りを歩きながら、有田焼やまちの歴史をお聞きすることができた。

札の辻というまちの中心にあたるところでは、古い家屋を改修してギャラリーを開設した「渓山窯」で休憩。2階の喫茶室でコーヒーをいただいた。この「渓山窯」は消費者と接しながら良いうつわづくりを目指すため「渓山ファミリー倶楽部」という会を作り、夏まつりでの体験工房や定期的な情報誌を送るなどいろいろな会員サービスを行っている(ご興味のある方は連絡していただければ、詳しい内容をFAXさせていただきます)。

その後、伝統的な建築物が数多く残る有田のまち中で、古くから店を構えている「手塚商店」にお邪魔し、 土蔵の中で、現在、まちの仲間で取り組んでおられる 有田町のまちづくり活動の実践について一渡りのお話 を聞くことができた。特に「春の陶器市だけではなく、

小さくてもいいから継続したイベントを行い、多くの 方に有田に足を運んでもらうような取り組みを行って いければ良いが」と言われたことが印象深い。

夕方近くになって「九州陶磁器文化館」に行き、当館員の方から1時間に渡って有田の磁器の体系的な解説を受けた。少しは陶磁器の講釈ができるような気分になったくらい充実した解説であった。私は九州陶磁器文化館は3回目であるが、説明があるとないとでは、その理解の充実度の違いに雲泥の差があることを改めて知ることができた。この施設では有料にしてでも常時、説明してくれるサービスがあっても良いのではとも思う。ここを最後に、ゆったりかつ充実した2日間の日程を終えた。



「あるある佐賀の底力」 (上巻/歴史編・下巻/現代編)

> 押田 努 佐賀新聞社

# ●「佐賀にはなあんもなか」とは言わせない ~地域の良いとこ探しの見本になる紹介本

この前、JR 佐賀駅の本屋さんに入ると、この「あるある佐賀の底力」が上・下巻一番前で平積みしてあるのを見て、ちょうど読みかけのこの本がカバンに入っている時だったので「あっ、やっぱり地元でも評判なんだ」と思った。

私は入社した年から佐賀方面の仕事に関わってきたが、最初の頃、市役所の1階に置いてあるアームストロング砲の実物模型や佐嘉神社にあるカノン砲などをみるにつけ、この地域の幕末の科学技術の水準が群を抜いていたという話は、やはり本当だったんだなあとい

う気分だったのを覚えている。
墨語・四音 コーロー

著者の押田さんは佐賀のことを全く知らない状態で 赴任され、「なんだこれは。これだけスゴイ資源が佐賀 全域はあるではないか。これを断片的にでなく網羅で きるものにせねばならない」と思われたのかもしれな い。

押田さんは昨年3月まで、前佐賀県商工労働部長を務めておられた。現在はNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)で部長の任に就いておられる。佐賀におけるわずか3年の任期中に、佐賀県内のあちこちに出かけていって話を聞いたり、文献を調べたりしたというが、読んでいると大変な思い入れをもって書かれたことが雰囲気としてよく伝わってくる。文章は小学校や中学校の副読本としてそのまま使えそうな分かりやすさだ。

私は個人的に肥前地方の海の交流史について関心を もっているのだが、本書の上巻には松浦党の社会制度 や活動範囲などについてもコンパクトにまとめられて いる。下巻では佐賀の企業、工場で特徴のある会社が 沢山あることを紹介している。例えば、鹿島市の会社

# 第8回よかネットパーティのお知らせるという

第8回"よかネットパーティ"を開催いたします。 昨年同様、持ち寄り型で行う予定です。

場所等の詳細については、次号でご案内いたします。

日 時:平成12年5月27日 (土)

12:30~15:30

には「小谷実可子のシンクロナイズドスイミングの水着を造った会社がある」「山間僻地でも生け簀料理を可能にした活魚輸送車のトップメーカー」など、エッと思うような意外な会社があるのを初めて知った。

でういう貴重な思い入れたっぷりの本を託された地域を私は幸運であると思う。今度は本書を受け取って 「なあんもなか」といわれないように元気の出る取り組みを地元に期待したい。 (尾崎 正利)



# 「身土不二の探求」

山下惣一 創 森 社

●今日から自分の食事には自分で気を付けようと思った~まずは自分で料理することから始めよう

最近、新聞・雑誌などで「野菜は調理前にこのような下処理をしなさい。ピーマンはよく洗って必ず熱湯消毒を、キャベツは…等々」という記事をよく見かける。スーパーに行けばカボチャは「オーストラリア産」しか置いてなかったり、ニラやショウガは「中国産」のものだけで結局買わなかったということが多い。また、一種類の野菜につき多産地のものが並べられる状況(消費者が国内産の野菜と外国産のものを比較して購入すること)が少なくなったように思う。

本書は佐賀県唐津市で活躍されている百姓であり作家(著者プロフィールには「活動農民作家」とある)の山下惣一さんが、「身土不二」という明治30年代に食養道運動のスローガンで用いられた言葉の、歴史的ルーツや農業・消費・生活などバックグラウンドの調査、韓国との比較などを通じ、農や食についての課題と方向性を探ったものだ。

山下さんの本によると、身土不二とは「人間の体、すなわち「身」と、そこの「土」は「不二」、二つではなく一体である」という意味なのだそうだ。また、これをスローガンとした食養道運動では「わが住むところの三里四方(12km四方)、もしくは四里四方(16km四方)でとれる旬のものを正しく食べることを運動の目標としている」そうで、宗教界では「しんどふに」と読み、人間と世の中は別々ではなく一体であるという

意味になるそうだ。顔の見える直売店の人気や遺伝子 組換の大豆や食品添加物、ポストハーベスト、アトピー の問題など、食へのこだわりは年々高まっているよう に思う。その上、昨年のベストセラーで「買ってはい けない」という本まで出て添加物や環境ホルモンの影 響をうったえている。「口にするものは全て何かに侵さ れているのだからしょうがない…」とあきらめてしま うのか、「生産者の顔の見える安全な野菜を購入しよう」 とがんばるのか、私は後者を選びたいと思っているの だが、そのためには、まずは、料理をすることから始 める必要がありそうだ。

余談だが、この本には、農業センサスから家計消費 年報、新全総、農林省のデータ、農産品市場のデータ …、様々な分野の本から引用、分析がされている。我々 のような統計を扱う者には頭の下がる本だ。

(澤谷真紀子)

## 編集後記

**圏**「よかネット」では食べ物のことをよく書くので「美味しいものを食べていいですね」と時々いわれます。確かに商売柄いろいろな土地に根付いたものを知るという意味で「調査研究」と称した試食はしばしば。

**翻**自分の仕事先の地域の食べ物のことですから、みやげ物屋さながらの講釈を交えて熱弁をふるい所員に勧めるわけで、みんなが「また食べたい」というものを買ってきた人は、その日だけ所内で尊敬されます。先日から、事務所の〇が取材先から地酒、饅頭、クッキーなどを買って来て勧めるのですが「また食べたいコール」はついに出ません。勧める本人はガックリですが、こうしたガックリ情報を逆に地元に返せば、より良いものを作るきっかけになるのではと思います。 (ざ)

## よかネット NO.44 2000. 3

(編集・発行)

㈱九州地域計画研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ5F TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

・(ネットワーク会社)

(㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所 大阪事務所

TEL 075-221-5132 TEL 06-6942-5732

名古屋事務所

TEL 052-265-2401

東京事務所

TEL 03-3226-9130